

東通の整備促進

現状と課題

本路線は、登別市の行政や商業・業務の中心地である幌別中央地区から住宅地を北西部に縦貫する道路であり、常盤町、中央町の住民が、幌別中央地区や公共施設等に向かうためのアクセス道路として重要な役割を果たしており、児童生徒の通学路としても指定されていますが、現状は、歩道がなく道幅も狭いため自家用車や大型車両のすれ違いの際は、車両と歩行者の距離が近く非常に危険な状態であり、積雪時には更に道幅が狭くなり一層危険な状態となります。

また、近年宅地開発された北西部では、若年層を中心に住宅建設が進み、行政人口が減少傾向である中においても地区内人口を維持しているほか、年少人口率が他の地区よりも高いことから、将来的にも交通需要が見込まれるところです。

要望内容



●東通の拡幅整備

【全体計画】

- 登別市常盤町1丁目1番地先
～登別市常盤町4丁目48番地先
- 施工延長 L=約1.2km
- 幅員 W=16m



▲通学路として多くの児童が歩行しているが、歩道がなく道幅も狭いため、大型車両が通行すると非常に危険である。

事業効果

- 道路の拡幅により、一般車両及び大型車両、緊急車両のスムーズな交通が図られる。
- 歩道の整備が行われることにより、通学する児童生徒の安全が確保され、より良い住民生活の充実が図られる。